

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年9月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670102690
法人名	社会福祉法人 のぞみ会
事業所名	グループホーム たんぽぽの里
所在地	鹿児島市下福元町6718番地 (電話) 210-8812
自己評価作成日	令和5年8月9日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NP0さつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年9月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ感染は少しずつ落ち着いてきておりますが、予防対策は継続しております。利用者様の体力低下、認知症の進行が明らかにあるように思っております。今年になり、町内会の方々との交流の場やボランティアの受け入れや散歩や花見見学など外出の機会を増やしております。今後は、開設以来、理念に掲げている利用者様本位のサービスを継続していく所存です。利用者様が安全に生活できるよう、又、スタッフの質向上の為、内部研修や外部研修の機会を設けていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、鹿児島市役所谷山支所から数km離れた下福元地区の閑静な住宅地の一角に、同法人の有料老人ホームやデイサービス事業所と共に設置されている。これらの事業所とは日頃から情報の共有に努め、研修や防災訓練を合同で実施する等協力体制を構築している。近くの産業道路沿いには大型商業施設や物産館、レストラン、コンビニ等が立ち並んでいて、利便性も良い。

ホームは、地域密着型サービス事業所として住民との交流が大切と捉えており、日頃の散歩時の会話や友人知人の来訪、買い物、訪問美容等に積極的に取り組み、地域住民からの認知症や高齢者福祉に関する相談への助言、農産物を頂くなど円滑な交流がある。コロナ禍で中止していた夏祭りを本年度8月に再開したところ、地域や家族100人位の参加が得られ、利用者および地域住民は久しぶりの交流を楽しんでいる。

管理者及び職員は理念に沿ってユニット毎の努力目標も掲げ、利用者の誇りや尊厳を大切にしながら、その人らしい安心した暮らしの支援に取り組んでいる。利用者の意向に沿った平穏な生活環境の確保に努めており、コロナ禍で自粛していた家族会や敬老会、ドライブによる季節の花見、買い物、外食、家族との外出等を本年度から再開している。利用者や家族からの意見や要望には、スタッフ会議等で速やかに協議して改善を図っており利用者及び家族の信頼度は厚い。

管理者及び職員は、信頼と協力のある良い人間関係の構築に努めており、日頃の業務の中やスタッフ会議、個別面談等で要望や意見を気軽に出し合い、法人本部とも協議しながら運営やサービスの向上を図っている。現在ベトナムからの技能実習生5人が就労中で、来月にはミャンマーからも2人を採用予定である。これらの技能実習生に対しては業務に関する指導に加え、日々の生活が円滑に営めるように、文化や習慣等を理解しながら助言に努めている。勤務シフトには有給休暇の取得や個人的事情も配慮するなど働きやすい環境作りに取り組んでいる。

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時や月1回のスタッフ会議では、理念を基本にした、利用者様各人の尊厳を保ち、ありのままの姿を理解し、受け入れるように確認している。	ホームの理念に「利用者が地域の中でその人らしく、安心して暮らし続ける」を掲げ、毎月の努力目標と共に玄関や事務所等に掲示し、毎朝の申し送り時の唱和やスタッフ会議で意義の確認を行って周知を図っている。日常的にケアの振り返りや意見交換を行い、理念に沿ったケアに取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの催し物への参加協力を運営推進会議時をお願いしているが日常的な交流はない。	コロナ禍に伴い地域との交流も自粛する状況が続いていたが、5類に変更されたことで本年度から外出の機会を増やしている。8月に開催した夏祭りには地域や家族100人位の参加があり利用者との交流を楽しんでいる。町内会に加入して日頃から地域の情報を把握し、散歩時の挨拶や地域住民からの認知症や高齢者福祉に関する相談への対応、農産物を頂くなど円滑な交流がある。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げていく認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	コロナ感染予防対策として面会や行事を自粛していたが、今後は運営推進会議時などでも情報交換していく。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が2か月毎に開催し、書面にて民生委員や地域代表には報告し、意見交換をしている。	利用者、家族、民生委員、町内会代表、長寿あんしん相談センター等が参加して隔月毎に開催しているが、コロナの感染状況により昨年度は書面会議に変更したこともある。ホームの現況や行事、ヒヤリハット等の報告を行ない、健康管理に関する質問や意見などが活発に出されている。職員は内容を共有し、業務の改善やサービス向上を図っている。次回からは町内会長も参加の予定である。	

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者には事故報告し、ご意見や指導をもらっている。生活保護担当者には、入退院や亡くなった時には早急に連絡、相談している。	市谷山支所の窓口に出向いたり電話、メール等で介護保険や各種制度、コロナ禍対応の協議、生活保護受給者（10人）に関する連携を密に行う等、日頃から協力関係を築いている。長寿安心センターとの密な連携や、市からの連絡事項の把握、労働安全センターでの研修等を積極的に取り組んで改善に繋げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	高齢者虐待は犯罪であると、毎月のスタッフ会議にて話している。日中は玄関の施錠はしないことを基本としているが、利用者様の状態によっては、臨機応変に対応している。	身体拘束適正化の指針を整備し、適正化委員会（3カ月毎に開催）やスタッフ会議で事例研修や意見交換等に取り組んで共通の認識を深めている。昼間は施錠は行わず、見守りや対話、寄り添いに努め、必要に応じて散歩や買い物に同行するなど工夫して拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについても日頃から留意し、馴れ合いによる不適切な発言等にはその都度注意し合って改善に取り組んでおり、センサーの使用についてはプランに反映させ家族の了解も得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や内部研修では積極的に参加するように指導している。スタッフの何気ない言動を自ら振り返り、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在成年後見人制度を利用されている利用者が増え、権利擁護、成年後見人制度について、話す時間を設けている。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用開始前から利用者契約、同意書について、誤解のないようにわかりやすく説明をしている。又、改定があった場合は、その都度、書面にて説明をする機会を設けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者、家族の思いや意見は毎朝の申し送り時やスタッフ会で共有化している。必要場合は個別に家族に報告、相談している。	利用者の想いは日頃のケアの中での対話や触れ合いの中で把握に努め、また、家族からは、来訪時や電話、「たんぼぼの里便り」等で利用者の状況を伝える等コミュニケーションに努め、家族会も本年度から再開して要望等を把握している。出された意見等は申し送りやスタッフ会議等で協議し、運営やサービスの向上に取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者、リーダーは、職員と積極的に対話している。スタッフ会議には、代表者の出席もお願いし、直接に意見交換をしている。	管理者は、日頃から職員との会話に努め、業務の中やスタッフ会議、個別面談等で意見や要望、悩み等を把握して改善を図っている。ベトナムからの技能実習生5人に対しては業務に関することに加え、文化や習慣の理解に努めながら円滑な日常生活が営めるように助言にも取り組んでいる。スキルアップを図る研修の実施や勤務シフトには職員の意向を十分反映させるなど、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、管理者やスタッフの勤務状況について報告を受け、直接スタッフから話を聞いている。業務だけではなく、スタッフの心配事にも耳を傾け、働く意欲を引き出している。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外国人労働者を積極的に採用し、人手不足に努めている。管理者、スタッフ一人ひとりの力量を把握し、法人内外の研修の機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内外の交流は頻回にあり、情報の交換をしている。同業者との交流は、今後もしばらくはコロナ感染拡大の予防対策として自粛していく。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前から情報提供書を取り寄せ、本人や家族には、電話で要望や不安に思っていることを聞き取り、不安から安心へと向かえるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から良好な関係づくりを心掛けている。又、本人、家族の生活歴を大切にし、利用者本位のサービスに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前から、これまでの主治医を交えて慎重に意見交換し、今何が必要か？を見極め、本人、家族の意向を優先する。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族には月1回のお便り、体調変化時には、その都度経過報告をしている。回復するまで、密に連絡を取り合っている。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いが本人に伝わるように電話を利用している。場合によっては、携帯電話使用を許可している。コロナ感染要対策中であるが、体調異変時には柔軟に対応している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りや元旦等の催事には、コロナ感染予防対策の為、短時間の外出をお願いしている。	利用者毎の生活歴や環境、馴染みに関する情報等を把握している。家族や友人の来訪時には話しやすい場に配慮し、希望に沿って墓参りや外出外食等を家族の協力を得ながら支援している。「たんぽぽの里便り」に利用者の近況を写真やコメントで伝え、遠方の家族との電話や手紙等の取り次ぎも行なうなど関係の継続に努めており、携帯電話を所有している利用者（5人）は日常的に馴染みの人との会話を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者と気兼ねなくお話ができる環境を提供している。その際はできるだけマスク着用をお願いしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、これまでの絆が切れないよう年賀状の交換などで、情報交換をして、相談を受けたり支援を行ったりしている。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族のいない方には、本人の思いを察知して、本人本位の支援になるよう努めている。	利用者の思いや意向を日頃の関わりの中や家族の意向も確認しながら把握し、生きがいのある、その人らしい暮らしの支援に取り組んでおり、買い物や外食（寿司他）等の希望にも個別に支援している。利用者の意向に沿って趣味（テレビや音楽の視聴他）や家事（調理の手伝い、下膳等）の取り組みを、心身の状況に配慮しながら支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでサービスを受けた経過や、これからのサービスは何を求めているか、家族や本人から情報を得ているので、希望が叶えられるよう努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	これまでの生活習慣やペースが大きく変わらないように情報交換を密にしている。ケアマネとの連携を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	チームでつくる計画書を目指している。スタッフ会議や申し送り時に意見交換をしている。	本人及び家族の意向や主治医の指導、モニタリング（3か月毎）やスタッフ会議での意見を基に、生きがいや楽しみ事にも配慮した利用者主体の介護計画を作成しており、ケアの実施状況は申し送りや「生活日誌」等で共有している。定期的な見直しに加え心身の変動時には、実状に即した計画に変更して改善に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス記録は事故や受診の結果だけではなく、いつもの表情や仕草に変化があった事等、詳細に記録するよう指導し、実践できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今、起こっているニーズを優先し、解決できるよう家族、主治医と連携を図り、早期解決に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為、今まで出来なかったが、地域資源の活用を今後はもっと活用する必要がある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医の訪問診療を支援している。専門医の受診は家族の協力で行っている。体調異変には早期に対応するようにしている。	各利用者の病歴等を把握し、本人・家族が希望する医療機関での受療を支援しており、訪問診療（月2回）や訪問歯科診療が実施され、他科受診（皮膚科、眼科）については家族と連携しながら対応する等、適切な医療が受けられている。日頃から衛生や健康管理に努め、協力医療機関との24時間医療連携の体制も構築されて利用者及び家族の安心に繋がっている。	

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師と連携を図り、常に報告、連絡、相談できる体制を整えている。情報が共有できるように生活日誌には詳細に記録をするように指導している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際は、家族の心情を察知し、ホームでできる支援を積極的に行っている。早期退院ができるように、主治医、相談員と連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時には、本人や家族に重度化した場合に、看取りの希望のある方には、書面にて同意を得ているが、その場面、場面に状況に応じて、その都度話し合いを行い、適切な対応を行っている。	重度化や終末期の対応については指針及び「医師や医療機関との連携体制」を整備し、利用開始時に本人及び家族に説明して同意を得ている。重度化した時点で家族及び関係者は十分に話し合っ可能な限り希望に沿った支援に努めており、これまでも多数の看取りを実施し現在も2人の看取り介護に取り組んでいる。重度化や急変時対応の研修も実施して、職員のスキルアップや不安感の軽減を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故時の対応マニュアルを作成している。AEDの講習会を2年に1回消防署の立ち合いの元、実施している。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日常の業務の中で、常に緊張感、危機感をもってケアをしている。緊急時は、落ち着いて行動できるように研修の機会を設けている。	年2回夜間想定を含む災害訓練を隣接の有料老人ホームやディサービス事業所と合同で実施し、年1回は消防署の立会いも得ている。連絡網や避難経路の確認、消火器等の点検等の自主訓練を隔月毎に実施し、災害情報をもとに意見交換するなど、防災への認識の共有に努めている。スプリンクラーや火災通報装置を設置し、飲料水や食料品、介護用品等を消費期限を確認しながら備蓄している。地域住民への災害訓練時の協力要請はコロナ禍により中断しているが、今後町内会を通して再開の要請を検討している。なお、BCPについては法人本部が作成中である。	

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況		
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護、権利擁護、認知症、接遇等について内外の研修参加の勤務体制が出来ている。	利用者の尊厳やプライバシー確保については、運営規定等に明記され、研修の実施やスタッフ会議等でケアの振り返り、意見交換を行って適切なケアの実践に取り組んでいる。排泄や入浴時の支援は人格や羞恥心に特に配慮し、日頃から利用者の残存機能や自己決定を尊重した支援に努めている。利用者に関する台帳等も事務室で管理するなど適切に取り扱われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴日には声かけするが、本人の意思を尊重した入浴日に変更したり、外出希望があるときには、短時間の外出をお願いしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にしている。本人のプライベート時間を尊重しながら、役割のある生活ができるよう支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問カットは、2か月に1回訪問カット専門の美容師をお願いしている。髪の毛の長さは本人の希望を優先している。			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好は、入居時に伺っているので、アレルギー性のあるものは提供していない。できるだけ、旬の食材を使い、季節感をだしている。	食事は利用者の何よりの楽しみで関心も高いことから、好みや栄養バランス、形態、季節感、疾病に伴う摂取制限等に配慮して提供している。季節毎の行事食（お節、彼岸、誕生会他）や手作りのおやつ、ガーデンカフェの開催、家族会や敬老会時の家族との会食、外食等工夫し、利用者も配膳や片付け等を楽しみながら行っている。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活習慣病の既往歴がある方には、炭水化物、水分量などの摂取量の把握をし、記録して主治医や調理担当者と連携を図っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後毎に声かけし、自力での口腔ケアをお願いしているが、状態に応じて介助している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々に合わせた声かけをし、尊厳を守る排泄への取り組みをしている。	利用者毎の排泄パターンを把握し可能な限りトイレでの排泄を支援しているが夜のみポータブルトイレを使用する利用者（5人）もいる。また、身体状況に応じた介護用品やケアの方法を工夫してプランに反映させ、利用者の誇りや羞恥心にも十分配慮している。便秘の予防には植物繊維の多い食材や乳製品、オリゴ糖、水分の摂取、運動量等に留意し、主治医の指導も受けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方には、主治医と連携を図り、オリゴ糖や植物繊維の多い食材を使った食事の提供をしている。運動のできる方には廊下や前庭での散歩をお願いしている。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を実施している。曜日は本人の希望に合わせているが、午後からの入浴はスタッフの業務上できないこととお話し、理解いただいている。	週3回、午前中の中入浴を基本とし、利用者の心身の状態に配慮しながら個浴で支援している。入浴日や時間、温度、同性介助等は意向に沿って柔軟に対応し、ゆず湯も取り入れる等ゆっくりと気持ち良く楽しめるように取り組んでいる。入浴後は水分の補給や皮膚疾患の軟膏塗布を支援している。入浴をためらう利用者には無理強いしないで声掛けや介助者、時間の変更等で、利用者の意欲を待つように努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や年齢を考慮し、休息してもらっている。午睡の時間は、30～60分位をすすめている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬が確実に服薬できるよう2重チェックしている。スタッフは利用者様の服薬情報は確実に把握できている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホームではどんな生活をしたいか？の要望を聞き、役割、楽しみのある生活ができるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ感染拡大予防対策中ですので、家族にも協力をいただいている。お天気を見て、単独の前庭の散策にお誘いしている。	利用者の外出への意向を把握し健康状態や天候等に配慮しながら、日常的に周辺の散歩を楽しみ、また家族の協力で外食や墓参等の外出に取り組んでいる。重度化に伴い全員での外出は難しい場合もあるが、コロナ禍に配慮しながらリフト車も利用して季節の花見や公園へのドライブ等の外出を再開している。	

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はご家族にお願いしている。ご家族にお願いできない時にはスタッフが代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人、家族の希望があれば、携帯電話を所持することを許可している。使用するときには他利用者様への配慮もお願いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や洗面化粧台などには、季節の花々を飾り、季節の花や野菜を植え、楽しんでもらっている。ホールのエアコンの温度や風量には入居様の意見を優先している。	ホーム全体がバリアフリーの構造で廊下やホール等は余裕のある広さが確保され、整理整頓や採光、空調等に細かに配慮している。随所に利用者の作品や季節の活花が飾られて、和やかで清潔感のある空間となっている。ホールの一角のキッチンからは調理の音や臭いが伝わり、テーブル等の家具が利用者の利便性や人間関係を考慮して設置され畳部分も設けられて、利用者は好みの場所で平穩に過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合ったもの同士の会話の時間を設けているが、マスク着用をお願いしている。一人で過ごす時間の多い方には、訪室して、話題を提供しています。		

自己評価	外部評価		自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋は自由にお使いいただくよう契約時にお話ししている。慣れ親しんだ好きなものを置き、心地よく過ごされている。	居室はフローリングに腰高窓の仕様で、ドアに利用者が迷わないように名札が掲げられている部屋もある。ベッド、エアコン、タンスが備えられ、利用者はテレビや家族写真、寝具、ゴルフのパター練習用器具、小物等使い慣れた物を自由に持ち込み、また、自身の作品も飾って、その人らしい落ち着ける雰囲気の居室となっており、職員は意向を確認しながら整頓等を支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関を除き、室内は全てバリアフリーで車椅子、歩行器移動の方にも安全に移動できるよう工夫してある。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない